
日本人学習者のためのロシア語学習語彙の研究

堤 正典／小林 潔

本研究ではロシア語の学習語彙を扱った。二つの点を中心に研究を行った、ひとつは学習語彙リストの検討であり、もうひとつは学習語彙の多義語分析である。

ロシア語学習をまったくの初修から始めるとすると、どのような語彙を学習していくべきかについては、学習すべき文法項目との関係も考慮して吟味する必要があるのは当然であるが、それとともに学習者がどのような表現を学ぶべきかにつ

ては語彙と直接かかわると言ってもよい。日本人学習者を想定した場合、どのような表現を覚えていくべきかについて十分な調査が行われているとは言えない。そこで、我々はТРКИの語彙リストを土台に、付け加える語、場合によっては削除する語を検討している。ТРКИの語彙リストはロシアへ留学してロシア語を勉強する学習者を想定している。ロシアに暮らしながら、ロシアの環境や常識の中でロシア語を使うことを想定しているわけ

である。ロシア語学習者は必ずしもそのような人たちばかりではない。そのようなことをふまえた再検討が必要なのである。

学習語彙リストの再検討とともに、語彙の多義語分析を行った。語は多くが多義語である。辞書のそれぞれの語彙項目の語積がひとつだけのものが少ないので、このことは明白である。語は多義ネットワークを形成している。初学者が語を学習する際に、多義のうちどの意味をまず覚えるべきなのかは必要な検討事項である。そして、その語の訳として与えられる日本語も多義である。ロシア語とそれに対応する日本語でそれぞれが多義であるため、ロシア語で意味することと日本語で意味することが異なる場合が当然ありうる。日本語とロシア語の双方の多義ネットワークを対照し

た分析は、学習者にも有用であるとともに、教師にも必要な情報である。

我々の研究では上記のことを進めてきた。国を越える移動ができないので、予定していたロシア人研究者の協力が得にくい状況が続いており、研究の進捗は満足なものとは言い難い。そのような中で、堤が講師を務め、2021年4月～9月にNHK（ラジオ第2放送）で放送された「まいにちロシア語・入門編」（全72課）は、本研究の成果を取り入れた学習内容となっている。また、小林は語彙研究として、日本におけるロシア人がかかわるニュースを題材に、それがロシア語で表現された時と日本語で表現された時でそれぞれの対応する語の意味範囲の違いからロシア語では不正確な伝わり方がありうる例を分析し報告した。

